

除染・復興の加速化に向けた国と4市の取組 中間報告(概要)

主な知見

目指す方向及び取組

【個人線量】

- 4市においては、平均的にみると年間の追加被ばく線量が1mSv程度となっている住民が多くなっている(ただし、生活パターンによって個人の被ばく線量は異なることに注意)。
- 4市の知見によると、空間線量率の平均値が0.23 μ Sv/hを超える地域においても、当該地域の住民の平均的な年間追加被ばく線量は、1mSvを超えない場合が見られる。

【空間線量率】

- 除染及び物理減衰等により、この3年で空間線量率は低下。
- これから除染を実施する地域においても、物理減衰等により空間線量率は低減。
- 4市の知見によると、居住地区の空間線量率(平均)との関係では、空間線量率が0.3～0.6 μ Sv/h程度の地域においては、個人の年間追加被ばく線量は平均的に1mSv程度。

【汚染状況の変化】

- 事故当時の面的な汚染は、降雨や人の活動により庭の雨どい下など既に局所に集中の傾向。

【個人の被ばく線量に着目】

(1) 個人の被ばく線量に着目した放射線防護の充実

- 生活パターンにより、個人被ばく線量は、ばらつきが多いことなどから、個人線量計を配布し、安心と必要に応じた除染以外の防護策の検討につなげる。

(2) リスクコミュニケーションの充実

- 市民一人一人の不安解消のため、4市における被ばく線量等の状況とそれを踏まえた対策の考え方を正確かつ丁寧に伝える。

【効果的な除染】

(3) これまでの知見を踏まえた除染の実施

(i) 個人の被ばく線量を勘案した除染の実施

- 時間経過による汚染状況の変化、空間線量率の状況、空間線量率に応じた除染の効果といった知見を踏まえ、地域の状況に応じて対応を検討。
- 個人線量が把握されている場合には、その情報も踏まえる。

(ii) 除染実施計画の早期完了に向けた効果的な除染によるスピードアップ

- 汚染の状況に応じて雨どい下など汚染が大きい箇所を重点的に除染を行うような効果的な手法を選択。
- 効果的な手法の選択により、除染作業のスピードアップを図る。

【除染から環境回復・復興へ】

(4) 環境回復・復興に向けた不安解消・放射線防護対策(除染以外)の総合的な推進

- (1)～(3)の対策を効果的に組み合わせ、知見及び既存の体制を更に強化することが必要。そのための、具体的な取組を検討する。
- 検討結果を踏まえて、環境回復・復興へとつなげていくための支援策やそれを促す仕組みを構築する。

【国が正しく伝えることができていなかったこと】

- 放射線防護の目的は、個人の被ばく線量をできる限り低減すること。除染はその手段の一つ(除染のみで線量を下げるものではない)。
- 0.23 μ Sv/hという数値は、除染の目標ではない。汚染状況重点調査地域を指定する際の基準となる数値。
- 年間追加被ばく線量1mSvを0.23 μ Sv/hに換算する計算式は、ある特定の生活パターンでの推計値。